

H27. 2. 21

日本一幸せな患者さん



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。56歳。

今週も私が「あの世から生き返らせた」人の話です。昔の話ですが、救急病院で当直をしていたとき、死んでいる人が運びこまれました。「死亡搬送」と言いますが、その人は肌を触るとまだ温かく、到着直前に救急車内で心肺停止したものとみられました。救急隊員から「気管支せんそくの重積発作」との申し送りを受けました。

人工呼吸器をつけたままICU(集中治療室)に運び入れたのが午後11時ごろ。心電図の波形は完全にフラットで、たどちに心肺蘇生処置を開始すると、10分ほどで心拍が再開しました。血圧が十分に上がらないので昇圧剤をたくさん使い、午前2時には血圧も上昇しました。昇圧剤が不要になり、自発呼吸もすっかり出てきました。助かった！午前3時には意識レベル

「死んでいた」のを知らず自己退院

ま、病院を出ていかれたのです。わずか6時間の入院でしたが、そのなかで見事に「生」を取り戻したので

先週、お話しした患者さんは、病院で生きかえることができたお礼として、おまんじゅうを持ってきてくれましたが、この患者さんはお礼のひとつもないまま立ち去りました。別に、まんじゅうが欲しいわけではないのですが、本音がなれないと思います。死ぬと

う。日本一、幸せな患者さんといえるでしょうね。患者に懸命に頼っても、残念な結果になってしまう患者さんがいる一方で、死んだ状態で病院に来て、ちゃんと生き返って気づかずに立ち去っていく患者さんもいる。それも、この差は一体何でしょうか。日ごろの精進でしょうか？ 私には、「運」としか言いようがないと思います。死ぬと



「生と死」シリーズ⑨

もすっかりしてきたので気管チューブも抜き、当直室に戻って少し仮眠を取ろうとしました。ところが、午前4時にICUから電話が。「患者さんが『退院する！』というて聞かないので困っています」。私は、「死んだ状態で病院に来たばかりだから、せめて朝まではICUにいるよう、患者さんに説明してください」と指示しました。しかしその患者さんは、午前5時ごろに看護師の制止を振り切って自己退院されました。私の当直は午前8時までが拘束時間だったので、あいさつもありません。

音をいえば、必死で生き返らせた相手の人とは少しでも話をしたかった。死んで運ばれてきたのに、何事もなかったかのように立ち去るとは「恩知らず」、なんてことは言いませんが、せめて私の当直の解放時間までは病院内にいてほしかった。しかし、生き返ったご本人はそんな気持ちを知る由もなく、なんて幸せな人でしょ

きは死ぬし、生き返るときは生き返る。現代医学には生き返らせるための道具がたくさんあります。いざというときにその技術を持った医者との巡り合わせであるような気がしてなりません。本日(21日)午後9～11時10分、フジテレビ系で「中居正広の『終活』って何なの？」僕はこうして死にたい〜」が放映されます。HKT48の指原莉乃さん、中村玉緒さん、綾小路きみまろさんらが、死について真剣に語り、私も解説者として出演しています。テレビ史上初ともいえる「死に方」をテーマとした番組です。がん医療についてもとても考えさせられる内容ですので、ぜひいらしてください。また、「長尾和宏の死の授業」(ブックマン社)という本も出ました。偶然ですが、テレビと書籍がシンクロした週になりました。興味のある方は拙書のほうもぜひ読んでください。

ちんぱん